



こうふ町 議会だより

町 勢

世帯数／1,162世帯
人 口／3,717人
(平成19年11月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ



やっぱりお米っておいしいね！

「大飯喰いフェスティバル」

平成18年度に使ったお金55億7,867万円……………	2 P
決算特別委員会参考意見……………	8 P
いっぱん質問 町政を問う……………	10 P
私もひと言……………	14 P

歳出総額 55億7,867万円認定

一般会計 35億6,586万円

前年度対比15.1%減

特別会計 20億1,281万円

前年度対比6.4%減

平成19年9月定例議会は、18日に招集され会期を28日までの11日間として開かれた。

今回の定例会には、平成18年度の一般会計と、16の特別会計の決算を決算特別委員会で審議した。また町長提出議案24件は慎重審議され、すべて原案通り可決した。

9月30日で任期満了となる教育委員に藤原成雄氏を全員一致で同意した。

公債費

7億5715万円

構成比率

21.3%

一般会計

平成18年度の一般会計は歳入37億604万円歳出35億6586万円で黒字決算となった。

歳入は地方交付税が増額になったが、町債の大幅減と町税・県支出金の減額により18.5%のマインスとなった。

主な歳入は町税9億1714万円、地方交付税12億2755万円、国庫支出金1億1160万円、県支出金2億1025万円、財産収入4億3928万円、繰越金1億2939万円、町債2億6630万円で、8億4003

7万円の減額となった。歳出は民生費の大幅減額と土木費の減額により15%の大幅減額となる。

費目別内訳は総務費8億6923万円、民生費5億9724万円、衛生費2億8898万円、農林水産業費4億4753万円、土木費1億4724万円、消防費7343万円、教育費2億1235万円、公債費7億5715万円、災害復旧費5976万円、諸支出金3162万円などです。

特別会計

平成18年度の16特別会計は、歳入総額22億9552万円で5.1%の減額となった。

歳入は20億1281万円、5.5%の減額です。歳入歳出決算では、2億8270万円の赤字ですが前年度繰越金2億6658万円を差し引くと1612万円の微増です。

主な歳出は国民健康保険(事業勘定)3億1763万円、国民健康保険(施設勘定)2億4125万円、老人保健6億5108万円、介護保険(保険事業勘定)3億7608万円、農業集落排水事業2億787万円。

監査委員の審査意見

住民が安心、安全で暮らせ、将来の 展望を持てる江府町の実践を!!

平成18年9月に第4次江府町総合計画を策定。さらに、平成16年6月に単独で町政を維持することが決まってから、町づくり町民会議、町づくり推進委員会等設置し、平成19年3月に江府町まちづくり推進計画を策定されましたが、住民が安心、安全で暮らせ、将来展望の持てる「江府町」を築くことが重要な使命であり、実践する必要があります。

成20年春にはサントリー
の天然水工場が稼働予定となっており、雇用の確保、財源の確保など見込まれるものもありますが、財政面においては一層厳しい状況が予測されます。今後の行財政につきましては、限られた財源であることの認識がされた今日において、財政推計などの情報を町民に提供しながら住民サービス、負担についての考え方を明確に示し、身の丈にあったメリハリある予算編成はもちろん、歳出の抑制に一層努める必要があります。

町民と行政が互いに「自助、互助、扶助」の関係を持ち、町民の目線でのまちづくりを進めていただくことを望みます。



奥大山地域の形成と笠良原地域の水環境解説会

監査留意事項

- ① 行財政改革の一層の推進を図りたい。
- ② 職員の研修環境を整備し、より一層の資質向上を図りたい。
- ③ 公共施設の適正な駐車場確保を徹底されたい。
- ④ 小学校統合により休校となる学校施設の有効利用を検討しておきたい。
- ⑤ 山村開発センター、日輪閣の今後のあり方について検討されたい。

要望事項

サントリーが操業することによる相乗効果をあらゆる面から検討いただき推進されたい。

決算の審議

一般会計

行財政改革は

Q 急務である行財政改革は具体的に進んでいるのか。

A 町長の報酬15%、議員10%、職員5%カットし、厳しい財政の中、執行にあたっては1割削減に努めた。今後も更なる改革を進めたい。

情報基盤整備は

Q 遅れている情報基盤整備の取組みは。

A 情報過疎にならないようプロジェクトチームを作って対応に取り組んでいる。11月までに中間報告をする。

関西交流会事業は

Q 関西交流会の成果は。

A まだ具体的な経済効果は出ていないが、今後、方法等検討して続けていきたい。

観光PRは

Q 釜こしきへの道路道通行止めなどの今後の対応は。

A 観光に対するプロジェクトチームで対策を進めると共に、案内標識の確認と設置、マップの作成など取組みを進める。

未収金徴収は

Q 町税・年金等の滞納金の徴収は。

A 他町村に比べて納付意識が高く、徴収率も県下1番です。町民の皆さんの協力をお願いします。

公用車の扱いは

Q 経費節減の中、公用車コスト低減は。

A 車輛の見直し、大きな車から小さい車へ、台数の削減と、運転者の安全意識の高揚に努める。

ゴミ対策は

Q もっとゴミを少なくできないか。

A 町民にゴミの分別を協力してもらい可燃ゴミの再資源化を進め、減量化を図りたい。

高規格道路江府三次線「江府道路は」

Q 高規格道路の進捗状況は。

A 今年度6月下旬から関係集落へ説明しているが、今後も引き続き協議を進めていく。

畦畔芝の効果と普及は

Q 農業委員会で普及に努めた芝の現状は。

A 現在、33戸の方々が取組み効果が出ている。今年度も単県補助(2分の1)で取組まれている。

減反施策と農業振興は

Q 減反による耕作物の普及と展望は。

A 減反作物としてそば、キャベツなど有ります。農業後継者問題を含め、地域営農、農業公社についても検討します。

基盤整備事業は

Q 洲河崎地区のほ場整備は。

A 平成18年度で洲河崎地区が江府町で最終となり、達成率は95%に到達しこの事業は一応完了した。

社会福祉協議会は

Q 社会福祉協議会の今後のあり方は。

A 社会福祉協議会は老健施設「あやめ」が出来るなど変化してきており、今後社会福祉協議会のあり方について協議する。

健康な町づくりは

Q 住民健診の普及と健康意識の広がり

A 住民健診は、早期発見、早期治療、そして予防のために必要であり、健康な町づくりに努めています。

小学校統合は

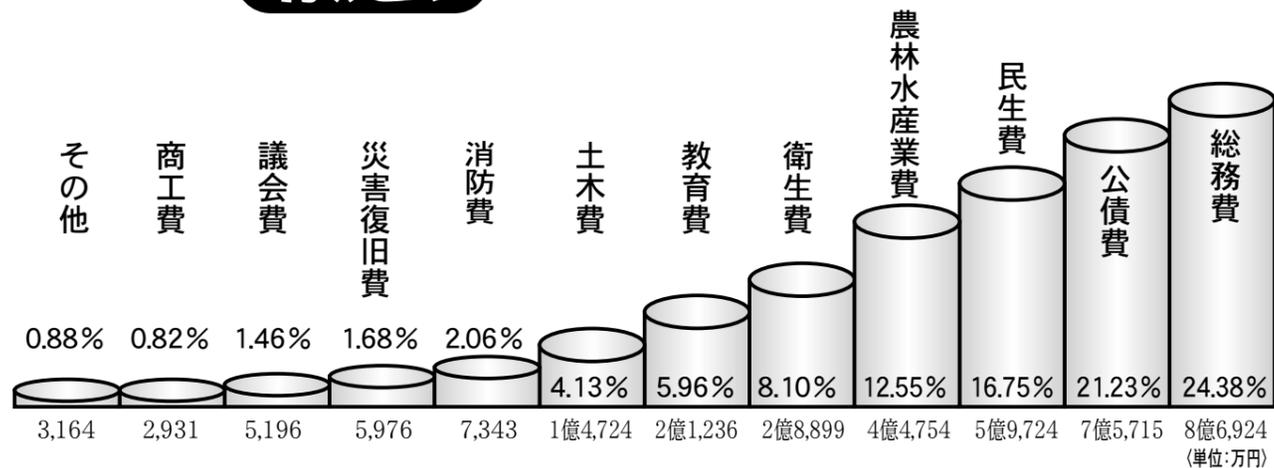
Q 平成21年、小学校は統合されるが校舎の整備と使われなくなる校舎の利用は。

A 今年の夏に耐震補強工事は完了した。残った校舎の後利用や通学方法等協議します。

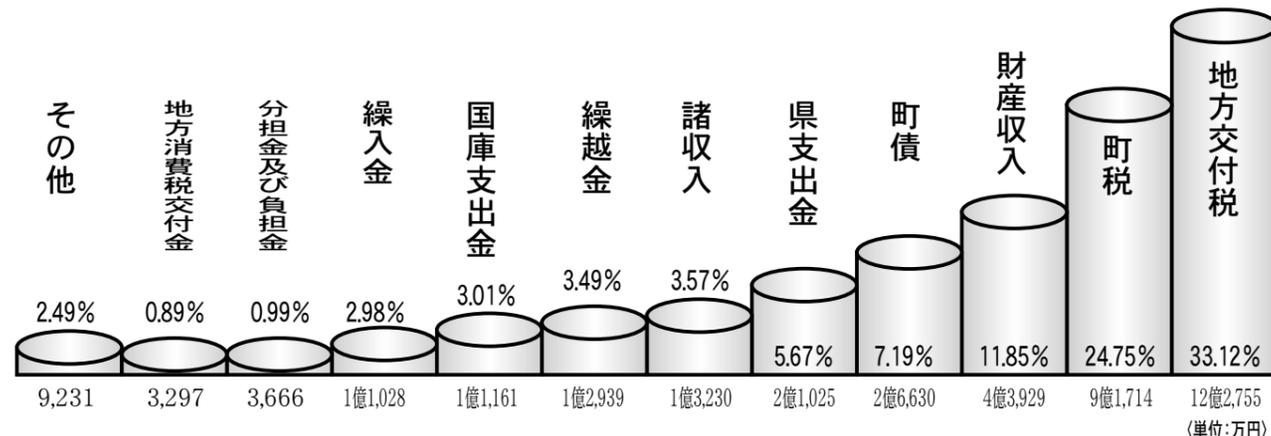


畦畔芝の苗

歳出 35億6,586万円



歳入 37億605万円



特別会計 (16会計)**総額 20億1,281万円**

前年対比約6.4%減 (1億3,907万円)

一般会計、基金より3億3,150万繰り入れ

・ 西部情報公開	50万円
・ 住宅新築資金等貸付事業	391万円
・ 国民健康保険 (事業勘定)	3億1,763万円
・ 国民健康保険 (施設勘定)	2億4,125万円
・ 老人保健	6億5,108万円
・ 介護保険 (事業勘定)	3億7,608万円
・ 介護保険 (サービス勘定)	41万円
・ 介護老人保健施設	1,692万円
・ 笠良原市民農園	168万円
・ 簡易水道事業	1億2,714万円
・ 農業集落排水事業	2億787万円
・ 林業集落排水事業	539万円
・ 特定環境保全公共下水道事業	5,656万円
・ 江尾財産区	124万円
・ 神奈川財産区	28万円
・ 米沢財産区	487万円

特別会計

医療費の削減は

Q 高額医療費の指定から外れたがその要因は。

A 入院医療費の減少によるところが大きいです。今後とも、健康づくりや早期発見に重点をおき医療費の削減に努力したい。

診療所の状況は

Q 患者数が増加し経過は順調に推移しているが、患者に十分応えられる状況になっているか。

A 患者数の増加によって、駐車場が手狭になっている。又、歯科診療において待合室が狭いことや次の診療の予約が遅くなるなど問題がある。医大より医師の派遣を仰ぎ緩和するよう努めている。根本的な解決には、今のスペースを広げ治療用いすを増やすしかなく、今後の課題と考える。

介護保険の状況は

Q 平成18年度より介護保険制度が変わり介護予防と地域包括支援センターが設置されたが、介護サービスの状況はどうか。

A 介護保険制度は3年毎に見直されるが第3期になる平成18年から一部制度が変わりま

した。これは当初予測より介護を利用する人、特に施設入所が多く今後は被介護者にならないよう予防にも力を入れるものです。昨年の実態を見ると一部サービスの低下につながる場合もあるので十分注意していきたい。



江尾診療所

簡易水道の料金は

Q 平成18年度は一般会計から約4800万円繰り入れしているが今後の料金改定は。

A 水道料金は、日々の生活に必要な基本的なものであります。現在、水道料金だけでは不足する経費を一般会計から繰り入れていきます。今後料金をどの程度にするか、公共料金見直し委員会を立ち上げ論議して頂いている所です。

笠原市民農園

Q サントリー建設工事のため休止しているが現在の状況と今後の計画は。

A 木造建築のため傷みが出ており修理が必要と思われる。廃止となれば、補助金等約3000万円の返還が必要である。今後、状況を精査し検討したい。



笠原市民農園



大豆刈取作業（農業公社）

決算特別委員会 参考意見

一般会計

平成18年度歳入予算額39億2640万円に対して、決算額は37億604万円と2億2千万円の減額決算となった。町長報酬15%カットを始め、以下議員報酬10%カットそして職員の給与5%カットと、厳しい財政と痛みを分かち合う予算の中で、予算執行割合が90・82%約1割カットで18年度の江府町政を行ってきたが、逆に公債費比率は伸びてきている状況です。経常収支比率も94・9%と昨年より約1%悪化し、基金残高も7億円と減少の一途をたどる中、行財政改革のさらなる改革が必要と思われる。

情報処理は

情報処理システムの一元化を図って事務処理の効率化と住民サービスの向上に努められ、ホームページの情報の更新がスムーズになっている。プロジェクトチームを作り住民への情報網整備に努力し、情報過疎にならないようにされたい。

観光は

観光地、景勝地の看板が不釣り合いになってたり、標識の見直し、新しい観光スポットの発掘、観光マップ等プロジェクトの答申を尊重し観光江府町に努めなければならぬ。

未収金徴収は

町税を始め保険料、貸付金返済等について時効にならないよう徴収に万全を期されたい。

社会福祉協議会のあり方は

住民サービスの向上と併せて老健施設「あやめ」との連携をとって健全化に努めると共に今後のあり方について十分議論の必要がある。

子育て支援は

少子化が進み子供の人数も大きく減少する中、子育て支援センターの充実、保育園の保育士等の不足が起らないよう努められたい。

農業公社と地域営農の推進は

地域の農業が高齢化により衰退していく傾向があるが、農業公社の自立運営を図ると共に、中山間地農業の効率と地域活性化のため地域営農組織の立ちあげを勧められたい。

小学校統合に向けて

耐震改修が終了し平成21年4月の小学校統合に向けて、校歌、廃校となる学校の資料等についてまた校舎の有効利用について検討されたい。過疎バスについても統合を機に十分検討され方を示されたい。

特別会計

住宅新築資金等貸付

長期にわたり滞納の状況が続いている。滞納状況を精査すれば従来どおりの対応では、今後も未納が増える予想される。新たな対応を検討されたい。

ゴミの減量化は

紙ゴミの分別のピーアールをしっかりとし、可燃ゴミの減量化に努めると共に資源として再利用するよう努められたい。

中学校教育は

少子化に伴い学級数が減少する中、30人学級を町単独で実施しています。財政は厳しいが今後も継続されたい。

国民健康保険

平成18年度に医科において初めて患者数が1万人を超え、順調に経営が行われているが、歯科診療において待ち時間の問題や次の予約が取りにくい等、問題も生じている。現状の中で出来る限りの努力をされたい。

公共下水道事業

平成18年度末において分担金の未収が約350万円となっている。公共下水の供用開始により個人負担27万円の未払いであるが、5年を経過するものも出てくることからその徴収に努力されたい。

高規格道路「江府道路」は

路線変更がなされて、なかなか進展が見受けられません。町・県が積極的な取組をされたい。

介護保険

平成18年度から始まった介護予防と地域包括支援センターによる介護認定の見直しにより、介護



保育園運動会

一般質問



廃校となる本校・分校の今後の方向は

田中 幹啓

問	統合後の残された校舎は
答	住民の意見を含めて方向性を

ろです。廃校の今後については積極的に子供たちの思いや、住民の皆さんの意見を含めて方向性をきちんと整理していきたいと思っています。

問	廃校の為の予算計上は
答	21年度以降計画に従って行う

る考えはあるかと言う質問については、21年度以降情報収集をしながら計画に従って予算計上していく必要がある。

問	記念誌発行は
答	必要と考える

記念誌の発行については必要であると考えられるのでこれから議論をしていきたい。



米沢小学校



俣野小学校



明倫小学校

質問 小学校統合まで1年半。廃校の本校・分校について何回も議論があったが形になってあらわれない。学校を壊すのか、有効利用するか、方針を出さなければいけないと思う。統合後の残された校舎はどうされるのか何う。また、プロジェクトができていないと聞くがその報告も何う。

質問 残された廃校問題も統合と切り離せばタイミングもずれ、問題解決にならないと思う。厳しい財政の現状はわかるがその為の予算計上をする考えはあるか何う。

質問 統合により1000年の歴史に幕を閉じるので記念誌発行を行う考えはないか何う。

問	行政改革の取組みは
答	まちづくり推進計画を基本に取組む



行政改革と森林振興対策は

日野尾 優

問	森林環境保全税の活用は
答	今後とも周知啓発する

と職員自らの改革として給与削減、定員管理における人員削減及び事務の見直しに取組んでおります。第二段階は、補助金と事業の大幅な見直しを行い、第三段階として公共料金の見直しに向け検討委員会を立上げ取組んでいるところであります。一方、平成18年度で完成した「江府町まちづくり計画」の中で行政改革の重点事項として事務事業の見直し、適正な定員管理、財政運営の健全化等、更にはスリムな小回りのきく機構改革、地方分権時代に対応できる職員の人材育成を取り上げております。この計画に基づき、既に実施に取り組んでいるものも多くありますが、今後具体化するために検討を進めているものもありません。「推進計画」を基本といたし着実に進めてまいります。

「とっとり共生の森」の公益性機能を有しております。このような中、「とっとり共生の森育成支援事業」に参画し保全事業を展開していますが、町には民有林約9200ha、内人工林4700ha、人工林率は51%であるが、ほとんど7歳以下で森林であり、間伐、枝打ち等の保育管理を必要としますが、木材価格の低迷等で実施されていない現状があります。県の「森林環境保全税」この制度を有効活用して民有林野の整備・保全の推進が必要ですが町長の所見を伺う。

質問 より簡素で効果的な行政運営を実現するため、事務・事業・組織・機構・定員管理等行政全般にわたって事業仕分けの総点検を実施し、住民ニーズが敏速的確に処理することができるとして自主的に創造的な行政を展開し、効率化を図る必要がありますが、町長に所見を伺う。

町長答弁 国の三位一体改革及び行政と歩調を合わせて取組んできたところですが、第一段階として役場内部



「とっとり共生の森」

町長答弁 現在、本町の森林施業の中心は町行造林の実施が中心となつていますが、厳しい財政状況の中、毎年40ha前後について間伐、枝打ち等の保育を実施しております。これに加え、鳥取

「とっとり共生の森」について、平成18年度に下安井、俣野において間伐を行ないました。今年度は洲河崎他38・42haの間伐実施について県の施業地認定を受け、年内実施の予定です。今後も周知・啓発を行い、積極的な活動を図っていきたくと考えております。

陳情の結果

みなさんから提出のあった陳情を審議した結果、次のとおり決定しました。

件名	審議結果
日豪FTA交渉、畜産酪農危機・地域農業の確立に関する陳情書	採択
悪質商法を助長するクレジットの被害を防止するため、割賦販売法の抜本的改正に関する意見書提出を求める陳情書	趣旨採択
「全国学力・学習状況調査」の調査結果を不開示情報とされることを求める陳情書	継続審査

議員提出議案

日豪FTA交渉、畜産酪農危機・地域農業の確立に関する意見書

1 趣旨

① 農畜産物輸出大国オーストラリアとの日豪EPA・FTAにより輸入農畜産物関税撤廃となれば国内農畜産業は壊滅的な状況となります。単に農畜産物の生産減少にとどまらず、約6割の耕作面積の減少による国土保全機能の破壊、さらには農業・食料関連産業等相場経済への影響も甚大です。

② 鳥取県の酪農は、全国と同様、牛乳の減産、乳価の低下、そして、海外の穀物・エネルギー事情による餌の高騰と三重苦の環境にあります。

平成19年も、餌の高騰や生産調整がより厳しくなる見通しであり、近年夢を抱き、規模拡大した後継者にとって展望の見えない状況です。

また、和牛等肉牛農家

2 趣旨

③ 品目横断的経営安定対策等の新農政が今年度から実施されます。鳥取県では、対象となる麦・大豆の作付けも環境的に厳しく、メリットが少なく米の生産意欲の減退は必至です。集落営農の組織化も進んでいません。中山間地では、米作すら放棄され、耕作放棄地の急速な増加につながる懸念があります。地域農業は、農山村の環境を保全し、地域の人間関係・地域の文化を育んできたものです。とくに、集落の営農は良き共同社会であった集落の人間関係を再生しつつ、地域農業を子供たちに残し、つないでいく重要な手段であり、地域農業の確立につながる施策が必要で

2 下記の事項について強く要請します。

① WTO、日豪EPA・FTA交渉では、農畜産物の関税撤廃、上限関税などに反対し国内農業を守り、安全・安心・安定した食料を確保すること。

② 畜産・酪農家が安心して生産を継続できるように、金融対策はもとより、飼料稲等による自給飼料の確保、地産地消の拡大による、牛乳・牛肉等の消費拡大に政府・行政あげて取り組むこと。

③ 新経営所得安定対策は、中山間地域など農村の実態からかけ離れており、集落営農の条件の多様化、弾力化、中小農家支援などの地域農業の確立策を講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

地方行政調査特別委員会の設置

全員で構成し、県外において10月17日から19日まで調査を行う。

① 千葉県浦安市での企業誘致及び観光等について

② 福島県猪苗代町のスキー場等の指定管理者制度について。

常任委員会の所管事務調査

11月30日までに町内において所管事務の調査を行う。

総務経済常任委員会

行政改革等の進捗状況等を調査する。

教育民生常任委員会

米沢小、江尾小の施設等調査を行う。



森田議員
川端議員
田中議員

自治功労者表彰を受賞

平成19年9月5日、森田議員、川端議員、田中議員の3名が、西部町村議会議長会から自治功労者表彰を受賞されました。町村議会議員として18年以上在職し、議会活動に尽力され、その功績が認められ受賞されました。



田中議員



川端議員



森田議員

教育委員の選任について 同意しました

平成19年9月30日で任期満了の江府町教育委員に藤原成雄さんを再任することに同意しました。



教育委員に
藤原成雄さん
(武庫)

第5回(8月)臨時会で 固定資産評価委員会委員の 選任について同意しました

平成19年8月16日で任期満了の江府町固定資産評価委員会委員に小林榮さんを再任することに同意しました。



固定資産評価
委員会委員に
小林 榮さん
(江尾)

企業からの報告 (政治倫理条例関係)

<p>平成19年8月6日付け</p> <p>報告のあった企業 株式会社 かわばた 議員と企業との関係 代表取締役社長</p> <p>契約の内容 本町五丁目多目的広 場造成工事</p> <p>請負の方法 指名競争入札</p> <p>契約金額 183万7500円</p> <p>企業の考察等 この工事を請負つても、(株)かわばたの業務の主要な部分を占めているとはいえない為。</p> <p>その他 平成18年度(株)かわばた完工高6億1926万5千円。</p>	<p>平成19年9月5日付け</p> <p>報告のあった企業 株式会社 かわばた 議員と企業との関係 代表取締役社長</p> <p>契約の内容 杉谷大井手改修工事</p> <p>請負の方法 指名競争入札</p> <p>契約金額 1018万5000円</p> <p>企業の考察等 この工事を請負つても(株)かわばたの業務の主要な部分を占めているとはいえない為。</p> <p>その他 平成18年度(株)かわばた完工高6億1926万5千円。</p>
--	--

ひょうご



御机 中田 豊子

自然豊かな 江府町に嫁いで

この自然豊かな江府町に嫁いで来て、5ヶ月になります。以前から、スノースポーツを楽しみに、江府町に通っていましたが、遊びに来るのとは違い、生活をするというのは、新しい発見がたくさんあって、毎日とても楽しいです。



今は、町内の職場で仕事をしています。多くの人達と接する機会が多いのですが、みんな、とてもいい人ばかりで親切に接してもらっています。今、不安なことがあるとすれば、江府町での冬の生活です。初めての経験なので、毎日の通勤や雪かきなど、ドキドキ、ワクワクしています。これからも、町の人達とふれ合いながら、楽しく生活していきたいと思っています。

小学校統合について



洲河崎 影山 一成

平成二十一年を目途に3年前から、江府町小学校の統合が具体化してきました。統合小学校舎候補の現江尾小学校では、校舎の補修も完了し統合後の生徒の受け入れ体制も進み、統合後の校名も江府小学校と決定したようです。統合後は町内で新たに明倫・俣野・米沢の未使用校舎ができ、その校舎の利用についてですが、それぞれの方の思い出がたまった場所ですので、今後とも是非残していただき、町民のため有効に利用できる

施設として活用いただけばうれしく思います。私の考えですがどの校舎も広く管理が大変です。そこで大区の集会所という考え方で校区の皆様はボランティアで校舎内外の管理をお願いするとともに、いつでも自由に利用できるコミュニティ施設としてはどうでしょうか。ちょっとした会合でも気軽に利用できるとも便利だと思っております。また、最近ニュース等でよく耳にする子供の学力低下の問題をさらに掘り下げると地域格差も生まれてきているとことです。江府町のレベルも分かりませんが、私も教育熱心ではありませんが当然高い方がよいと思います。そこで、校舎を利用した塾のようなものを教育委員会が中心となりできればと考えます。生徒も保護者も近くに安心して通える施設を望んでいるのではないのでしょうか。今後は、生徒・児童に対して安全で安心できる通学路線の確保をお願いすると共に楽しい学校になることを期待しています。

あとがき

参議院選挙は地方が悲鳴を上げ、格差がこれ以上進まないように偏った改革に「NO」を記し、衆参ねじれ国会になってしまった。

日本のため、国民のため大いに議論し安心して暮らせるよう政治に期待します。

ナナカマドの実が今年はたくさん真っ赤になっています。

スキー場にたくさん雪が降ってにぎやかなシーズンになるよう祈っています。

川上富夫

議会広報調査特別委員会

- 委員長 越峰恵美子
- 委員長 川上 富夫
- 副委員長 川上 富夫
- 委員 上原 二郎
- 委員 日野尾 優
- 委員 池田 成弘